

## 変化の時代に適応できる企業へ



高橋 公浩

株式会社開発工営社 代表取締役社長

植田前社長から引き継ぎ、社長を務めております高橋公浩です。

今年も7月に熊本県をはじめとして、九州、中部、東北で甚大な豪雨災害が発生しました。亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、被害にあわれた方々に心よりお見舞い申し上げます。また、災害対応、復旧にあたる皆様に深く敬意を表します。

この令和2年7月豪雨災害に限らず、近年観測開始以降の最大値を更新するような災害が頻発しており、地球温暖化の影響が表れているように感じます。

令和2年度の国土交通白書 第II部第7章に、

『治水計画を「過去の降雨実績に基づくもの」から「気候変動による降雨量の増加などを考慮したもの」に見直すとともに、これまでの河川、下水道、砂防、海岸などの管理者が主体になって行う治水対策に加えて、集水域と河川区域のみならず、氾濫域も含めて一つの流域として捉え、その流域のあらゆる関係者が協働して行う治水対策、「流域治水」への転換を進めていく。』

と書かれており、新しい方向性が示されました。これは治水対策の大きな転換です。

開発工営社の経営方針のひとつに「変化の時代に適応できる企業へ」があります。弊社は、先の治水対策の大きな転換や、地域の環境や社会的ニーズの変化を的確に把握し、これに対応するよう、これまで同様努めてまいります。

おかげさまで、弊社は14年連続して北海道開発局優良工事等表彰局長表彰を頂戴するとともに、6件の部長表彰をいただくことができました。弊社の成果が発注者から評価いただいたことに感謝するとともに、これからも良い成果を納め、発注者から必要とされる存在であり続けるよう、個々の技術力の研鑽を進め、総合力が向上するよう努めてまいります。

これからも、弊社をご愛顧くださいますよう、お願い申し上げます。